

# つなぐ

令和元年6月12日（文責 特別支援教育担当 水谷）



## ビオトープ交流でつながる



1年生の技術・家庭科と特別支援学級の作業学習園芸との共同学習を宮大ビオトープの畑で行いました。8つのグループに分かれて、畝づくりとサツマイモの苗植えを行いました。いつも作業学習を行っているE級の生徒にとっては、畑での作業は慣れたものでしたが、普段畑での作業に慣れていない1年生の生徒は土に触れることや鍬やスコップを使うことにも悪戦苦闘で、E級の生徒が優しくアドバイスする姿も見られました。短い時間での作業でしたが、全員が力を合わせて300本の苗を植えることができました。秋には収穫作業を行い、収穫する喜びをみんな味わいたと思います。



## 体育大会でつながる



5月21日（火）に行われた第72回体育大会。応援や競技等、様々な場面で通常学級と特別支援学級（E級）の生徒が交流することができました。

各団の応援では、E級の生徒と交流委員の生徒が肩を組んで声を出したり、一緒に踊ったりしながら、盛り上がりました。また、各学年の団技では、E級の生徒も同じ競技に参加しました。練習の段階から、各学級の生徒と交流を深め、本番では息の合った動きを見せていました。さらに、E級団技では、例年参加していただいている来賓の方に加え、交流委員の生徒も一緒に参加し、競技を楽しみました。E級の生徒たちも、団の勝利に貢献しようと、休み時間の教室や廊下で懸命に練習を重ね、勝利の喜びや負ける悔しさを一緒に味わうことができました。こうした共に感動した体験をこれからの日々の生活につないでいきたいと思えます。



## 仲間の思いでつなぐ・つながりつづける

以前勤務していた中学校の特別支援学級に自閉症の生徒Kさんがいました。Kさんは、言葉でのコミュニケーションは苦手ですが、絵を描くのは得意で、当時大好きだった「がんこちゃん」をいつも描いていました。

そんなKさんの中学校最後の体育大会でのこと。その学校では、附属中と同じように全員参加の学級対抗リレーが行われました。「全員」の中には特別支援学級の生徒も含んでいます。どの学級も一位を取ろうと必死に練習する中、バトンを受け取ったKさんは走ったり、走らなったり。その学級は毎回最下位でした。

本番を目前に控えた昼休み、交流学級の生徒が真剣な表情で特別支援学級を訪ねてきました。私はすぐに「Kさんをリレーから外したい。」と伝えに来たと思えました。しかし、その生徒は全く逆の思いを伝えてきました。

**「学級みんな、Kちゃんと走りたいんです。どうしたらKちゃんと一緒に走れますか。」**

それからみんなで作戦を考え、Kさんが大好きな「がんこちゃん」が走る姿を見せて応援することにしました。そして体育大会本番。Kさんにバトンが渡った瞬間、交流学級の生徒が「がんこちゃん」の絵を持って飛び出します。しかし走り出さないKさん。「作戦失敗」と誰もが思ったとき、唯一伴走することを許されていた交流学級の担任が、その絵を持って走り出しました。するとそれを見ていたKさんも走り出しました。そして、一度も立ち止まることなく、次の選手にバトンをつなぎました。結局リレーは最下位でしたが、全員が最高の笑顔でした。

それから5年後の成人式。晴れ着姿で会場に来たKさんは、みんなと一緒に成人証書を受け取りました。一緒に壇上に登ったのは、あのときの仲間。その手には「晴れ着姿で証書を持つがんこちゃん」の絵がありました。